

令和 5 年第2回日野市環境審議会 議事要旨録

■日時 令和 5 年(2023年)7月 25日(火) 午後2:00~午後4:10

■場所 日野市防災情報センター 災害対策本部室

■出席者:審議委員(13 名出席 2 名欠席)

理事者1名

荻原 弘次(あいさつ後、公務のため退席)

事務局 7 名

小平 裕明(環境共生部長)

中平 健二郎(環境保全課長)

高木 秀樹(緑と清流課長)

川崎 文紀(環境保全課 保全係長)

福嶋 健裕(環境保全課 環境政策係長)

菱山 哲

大平 健司

傍聴者なし

会議次第

1.開会

2.副市長挨拶

3.審議

日野市環境白書について

・日野市環境白書について説明

・質疑・意見交換

4.事務局より連絡

5.閉会

3.議題 日野市環境白書について
(委員)

日野市環境白書の 36 ページについて、令和 8 年度に 1 人 1 日当たりのごみ・資源排出量 550g/人・日以下について、前回の環境審議会でいただいた資料では、1 人 1 日当たりのごみの排出量で全国 2 位を達成したとある。今回の資料では、ごみ・資源物排出量とある。そうすると今一生懸命、資源を分別化していますが、資源物が入るとなると、ごみの総量はなかなか減らないと考えている。ごみだけなのか、資源物も含むのか教えていただきたい。

事務局)

ごみだけでなく、資源物もカウントしております。市として資源物も減らしていく取り組みが必要であると考えております。なぜならば、燃えるごみ、燃えないごみ等しっかり分別して資源物に回すということも大事ですが、資源物だからと言って大量に出してよいわけではない。資源物を収集する、リサイクルしていくことにも費用がかかってしまうので、そもそもごみを出すこと自体を減らすことが大切であるため、ごみ・資源物という表現になります。

委員)

買ったものは出来るだけ買ったスーパーなどに戻しているが、そのごみについてもカウントされるのか。それも教えてほしい。

事務局)

店頭などでの資源物の回収についてですが、市のごみ量にはカウントされません。市としても容器包装お返し大作戦としてお店に返してもらうことを推奨しております。これはなぜかという、お店に返すという事は、お店が回収する、つまりお店が責任をもって資源化することになります。そうすると、お店自体が容器包装プラスチックを減らすような取り組みをしていくことにつながるという考え方で容器包装お返し大作戦を市として進めているところでございます。

委員)

1 ページの下に写真があって、日野市環境フェアでの気候非常事態宣言、それからその次のページでも協定締結式の写真があるが、写真という言葉はいらない。今回の内容がいつ実施されたのかという年月日が入ればいいのではないか。それから 6 ページ。気候市民会議の大まかな流れがありますが、気候市民会議の無作為抽出という集め方について、他の市民の方、気候問題について関心のある方、それから今まで日野市で活動している方の意見など、それまでの考え方や経験などがこの市民会議の中に入らないのではないかと。以前住んでいたところでは、市民の人に色々な意見を聞くときには「市のホームページで何かご意見をお寄せください」として、誰でも意見のある方がホームページを通じて意見が言える。第 1 回目応募では、1500 通に対して、9 名。2 回目の 3000 通を送った結果、145 名集まって合計 154 名集まった。その 154 名の人は「参加したい」という気持ちで返事をくれたのに、その中から 40 人しか選んでもらえていない、ごくごく少人数に絞られた人数の意見しか入らないのではないかと思う。既に決まった 40 名の方はしっかりやってもらってもいいですけど、それにプラスアルファ、より多くの市民のより多くのいろいろな意見、気候問題について関心がない人には関心を持ってもらえるような、より開かれた大勢の市民

の声を聞いてもらえるような方法を加えてほしい。次が 13 ページ、農の学校 18 名が受講となっているが、私も参加しているが 17 名ではなかったか。確認してほしい。23 ページ、水辺の楽校といういい取り組みだなと思ったが、よく見るとこの水辺の楽校って何だろうと思いました。このページで、水辺の楽校はどこが主催していて、どういうことをしていて、対象はどういう子どもたちでといった説明を文章で載せてほしい。また農作業は、日野市の全部の学校の生徒さんが参加・体験されているのか。また、何人ぐらいの子どもが水辺の楽校を通じて、田植えの経験ができたのか、そして今年だけの取組みなのか、それとも昔から日野市でやっていて毎年こういう経験をすることが出来るのか説明が入るといいと思う。それから 29 ページに「東豊田緑地保全地域の保全活動について、関係組織間で方針を協議した」とあるが、関係組織がどんな組織で、どんな方針を協議したのかわからない。細かいことをこのページで入れることが出来ないのならば、もっと活動について詳しく知りたい人はこちらをご覧くださいみたいな感じでリンクを入れる等をしていただくと、活動についてより分かると思う。24 ページで、「日野用水クリーンデーとして約 30 名のボランティアと日野用水の清掃活動を実施した」とあるが、この 30 名のボランティアの方と誰が清掃活動をしたのか。ボランティアの人だけが清掃したのならば、約 30 名のボランティア「が」実施したとなると思う。市の職員の人、あるいは別の方と一緒に清掃活動をしたのか、それがわからない。また日野用水という言葉もよくわからない。日野市にある用水全てなのか、それとも日野用水という用水があるのか。それによって、ボランティアの人が日野市全体の用水を清掃してくれたのかがわからない。もう少しわかりやすい説明が欲しい。73 ページのデータの凡例が小さくて何が何だか分からない。もう少し線で結ぶ、グラフエリアを工夫する等を見ると見やすくなるのではないか。

事務局)

写真の日付については反映させていただきます。気候市民会議については、2018 年頃からヨーロッパで実施されています。気候市民会議はミニパブリックスという方法で、無作為抽出により日野市の人口構成に応じた形で男女比、年齢構成比も合わせた形で熟議を重ねていく仕組みになっております。人数も熟議を重ねるため、40 名が我々の自治体規模では精いっぱいでございます。募集の際にも、ミニパブリックスという方式に則り、無作為抽出および抽選の中で決まってしまうものであるため、必ずしも参加いただける形ではないという事をあらかじめご説明させていただいたうえで募集を行いました。気候市民会議のみで全てを決めていくわけではなくて、環境分野に取り組まれている方々の意見も貴重な意見として取り入れていきたいと思っておりますが、全ての人に関係する問題ですので、多世代の方、その属性も含めて特定の意見を持った方だけではなく、広く色々な方の色々な視点からご意見をいただくため、このような方式がとられているということをご理解いただければと思います。

事務局)

23 ページの水辺に関する普及啓発ですが、水辺の楽校を中心に記載させていただいておりますが、市内の小学校 17 校で水田耕作を行っているはずですが、それぞれやり方があり、例えば 23 ページの写真では浅川潤徳水辺の楽校を紹介させていただいており、小学校の子どもたちを中心に行っている活動です。これは、学校と地域、日野市役所が一緒になって行っている活動になります。耕作体験については、規模感の違いはありますが、バケツ稲のようなものから、校庭の端に田んぼがありその田んぼで耕作をしているところもあれば、市民の農家から田んぼの一部をお借りして水田を実施している場所もございます。なので、農作業体験はほとんどの学校で実施をしているため、記載方法については再度検討いたします。24 ページについてですが、日野市が主催で実施しております。日野用水は日野市の用水、ではなく、日野市内には日野用水、豊田用水、上田用水、平山用水、向島用水、落川用水、川北用水、黒川用水などの用水がございます。基本、その用水ごとに用水組合が存在します。日野用水に関しましては、多摩川から取水している用水路で日野用水だけは用水組合ではなくて日野用水土地改良区という土地改良法に基づく団体が管理しております。日野用水クリーンデーはこの用水路の管理の一部ですので、日野市と土地改良区と市民のボランティアの方が一緒になって清掃活動を長年実施しているものですので、記述の仕方について工夫をさせていただきます。また必要に応じて、日野用水とはといった説明をいれさせていただきます。

委員)

白書は日野市の人にはぱっとみて、ああ、日野用水ねとわかるかもしれませんが、それだけでなく、全国の人が見てこのページを見てわかるのが理想かなと思います。

事務局)

記載方法を工夫させていただきます。29 ページについてですが、東豊田緑地保全地域の保全活動について方針を協議したというのは、立川にあります東京都の多摩環境事務所が東豊田緑地保全地域の管理をしている部署になりまして、多摩環境事務所の職員と日野市の職員と、東豊田緑地保全地域に含まれる黒川清流公園のボランティア、東豊田緑地保全地域全体のボランティアといった方々が一緒になって、これまで統一感のなかった緑地の管理方法、黒川清流公園は距離が長くエリアごとに景観が変わる場所ですので、場所場所の特性に合わせた管理の仕方を検討し、そのうえで責任の所在を明確にして、適正な維持管理をしていこうと協議を行ったところです。今年度からその方針に基づきまして管理をしていきますので、そのあたりをもう少しわかりやすく記述させていただこうと思います。74 ページにつきましても見やすく修正・記載の方法を検討いたします。

委員)

今回の環境白書について説明にもあったかと思いますが、指標に照らした評価を実施しないという理解でよろしいでしょうか。

事務局)

第2次日野市環境基本計画では、環境基本計画そのものに各分野の指標を設けて環境基本計画のみで管理していくという仕立てでありましたが、現在は、各分野に存在するより詳細な関連計画、例えばごみであればごみゼロプラン、下水道であれば下水道プラン、生きものであれば生き物に関する戦略などがありますので、環境基本計画はそれらを司る上位計画として市全体として環境をどのように考えていくかを定めた計画となっております。そのため、第3次日野市環境基本計画には指標がございません。指標や数字については各関連計画の実行計画で照らしてみたいというので、今回の環境基本計画に基づく白書では、第3次日野市環境基本計画に基づいて実際に具体的にどのような事業を行って、こういう課題があって来年度はどのようにしていくのかを報告する構成となっております。

委員)

環境基本計画もコンパクトにして、指標を全て羅列することは環境基本計画では実施せず、関連計画の目標をそのまま持ってきているといいますか、それを達成することを前提にしているという事ですね。今回の資料で関連計画と目標というのが記載されております。定量的な目標があるものについては、今どのぐらいの位置にあるのか知りたくなりますよね。しかし、ここではそれに対する答えは書いてありません。データ集のほうにデータがのっているので、絶対量はわかりますが、目標に対してどれだけ達成できているのかが書いてありません。関連計画で定量的な目標値が示されていて、環境白書にもその旨が記載されているのですから、目標に対して今どこにいるのかを見せる。もっと頑張らなければいけないのか、それなりにいいところまで来ているのかがわかるように進行管理のツールとして活用していく上では、重要ではないかと思っておりますので、そういった記述が欲しいと思います。進行管理ツールであることをふまえて、令和4年度の取り組みに対してこういったことをしましたっていうことを踏まえて、どこが課題で、令和5年はなにをやっていくという意識があるのがみえますが、全体を通してみると取り組みは記載されておりますが、課題が書いていないところがある。しっかりと取組と、それを踏まえての課題まで記載しないと次のステップにつながっていかないので、是非統一していただきたい。細かい点ですが、1ページのIPCCの報告書について言及がありますが、今年の3月に公表された第6次統合評価報告書から出されていることだと思いますので、その旨を記載してほしい。また39ページ、40ページ、41ページ、43ページに誤字だと思われるも

があるので修正していただきたい。最後に 77 ページですが、騒音は工事関連だと思いますが、その他がものすごく増えている。その他の例として空き地の草が繁茂しているという記載がありますが、その他すべてがこういった内容だったのか、もっと多様なものが特徴として出てきているのか、もう少し情報を入れていただきたい。

事務局)

定量的な目標値についてですが、環境白書は進捗管理ツールであることは間違いございません。関連計画で、進捗を行っているなかで、数値があるものもないものもありますので、数値目標があるものについてどのあたりの位置にいるのかというのが気になるのはその通りだと思いますので、記載の方法を工夫させていただきます。課題についてもできる限り対応させていただきます。その他の部分についてもご指摘のとおり修正、皆様に分かるよう記載させていただきます。

委員)

3 ページ目ですが、28 年度から 30 年度がフラットになってしまっているのが、どういった結果になっているのかが分かりにくいのでピックアップするか何かしたほうがいいのではないかと思います。7 ページ目ですが、CO₂ の排出量の少ない交通手段の周知、これは日野市の一番端の方がこの啓発を受けると一番 CO₂ 排出量の少ない徒歩になりますかという事につながる可能性が考えられる。そうすると、エコドライブやミニバスを使わずみんな歩いていきなさいという事になる。これはどういう感じになるのでしょうか。13 ページ目ですが、利用しているのはわかりますがその食品残渣がどれくらい出ているのかを明記したほうがいいのではないかと思います。データがあれば何か記載していただければ。16 ページの図のところは細かですが何か言葉が入っているので修正したほうがいい。次に 34 ページ。令和 5 年度の取組みでアメリカザリガニの取扱について、日野市としてどのように取り扱うのかを記載されたいのではないかと思います。また CO₂ が大文字や小文字になっているので、統一していただきたい。また、74 ページの表において、2020 と 2021 の線がないのでわからなくなっている。76 ページでは、1 とか 3 とかの数値が見えにくい、もし記載が難しいのであれば割合としてほとんどないので記載がなくてもいいのではないかと。

事務局)

図表等については修正させていただきます。CO₂ 排出の少ない交通手段の周知ですが、公共交通機関整備率、これは駅から 500m、バス停から 200m を基準に考えておりますがまだ整備が完全に出来ているわけではありませんが、市の中心地の方々に向けて、CO₂ 排出量の少ない交通手段としてこういうものがあるといったことを

周知させていただいております。残渣については、担当課に確認をさせていただきます。

委員)

29 ページなどではありますが、何点か写真が大きすぎるというか、文章の部分を写真でという印象を受ける。29 ページについても、私もかかわっていて非常に内容が豊富です。雑木林をどう維持するか、どう利用し、将来に残すか、そういう議論がなされています。そのあたりを記載していただきたい。写真についても、こういう写真を入れるのならば、なぜこの写真を載せているのか、そういう説明を入れれば構造が分かりやすくなるのではないかと思います。また水辺の楽校、これはもう何となくこういうものではないかなと思ってしまいますが、指摘があったように再度、こういう言葉を使うならばこの言葉はこういうことでこういう取り組みです、という説明が必要だと思う。

事務局)

今回の環境白書では市民の皆様により手に取っていただきやすく、という視点で作っております。その中で頭を悩ましているところがございますが、文字だけを羅列しても分かりにくくなり、写真という視覚効果は非常に効果が大きいため積極的に使用しておりますが、それだけに頼って説明不足になってしまっは本末転倒なのは間違いないため、バランスについて再考させていただきます。

委員)

6 ページについてですが、特定の意見だけではなくといった発言がありましたが、私の知り合いでも特定の意見を持っているというわけではなく、気候問題は今、多くの方が知りたいし、勉強したいし、意見・自分の気持ちを言いたってという方がいます。そういう人を増やさなければいけないのを、狭いニーズだけでしてしまうというのを何とかしてほしいという声を私は受けています。気候市民会議に声をかけてもらえなかったたくさんの市民の声も聴いてもらえるような仕組みを是非お願いいたします。

事務局)

説明が足りなかった部分があると思うのですが、気候市民会議のみで何かを決定していくわけではなくて、様々な場面・機会を設け、より多くの方の意見を聞いていかなくてはならないと思っております。気候市民会議の意図も、市民全員の意見を聞くことが出来ていいのですが、そういうこともできない中で気候問題を知らないけども関心を持っている方は多くいらっしゃいました。そのような方々も含めて、実態を学びながらニュートラルな観点から意見をいただくものです。特定の意見ではないと

というのはそういうところであって、意見を持つのがいけないという事ではなく、様々な観点・様々な属性の方々から意見を拾いたいという趣旨で開催させていただくものです。

委員)

48 ページの窒素酸化物についてですが、2 月だけでよいのでしょうか。夏と冬では濃度が変わってきますので、最低でも 2 回以上は測定したほうがいいのではと思います。また 3 地点とありますが、3 地点がどこなのか明記されていないので、例えば市役所前なのかわからないので明記したほうがいいのではないかと思います。また二酸化窒素 24 時間測定結果とありますが、スポット的に日野市の屋上で測定しているのか、それとも 365 日 24 時間測定しているのかわからないので教えていただきたい。また屋上 40m で我々が生活しているわけではないので、地上、3m の地点で測定したほうが分かりやすいのではないかと意見として言わせていただきます。

事務局)

場所について修正させていただきます。測定時期・測定場所についても担当者に確認させていただきます。

委員)

こういった環境影響評価のようなものは、既に示された方法があるかと思いますので今後何かそういったものに則るとよいのかもしれないと思います。

委員)

76 ページのグラフについてですが、2020 年と 2022 年で倍になっております。市民の暮らしやすさというところで苦情が倍になっているのはすごいことだと考えている。もう少し前からのデータもあるといいのではないかと思います。また前がずっと低い水位で今回 2022 年が大きくなっているのであれば、その部分はこれから大きな問題として考えていかなければならないと思います。

事務局)

苦情は主に騒音について増えております。その他の件数は例年とそこまで変化がありませんが、昨年から一部の方がヘリコプターの苦情を出されているのが原因として考えられます。その他についてですが、主なところで草の繁茂になります。昨年度は一部の場所で草の繁茂に関する苦情が増えておりました。また確認をさせていただきますが、2020 年、2021 年は草の繁茂について苦情件数にカウントしていなかった可能性があります。

委員)

ヘリコプターについて、同じものであれば一件一件追加しなくてもよいのではないのでしょうか。ありがとうございます。

委員)

環境白書は何か分科会の様なもので環境基本計画の 6 分野について審議をしたうえでこの環境審議会で審議をしているのか。それとも分科会はなく、審議会に出されているのか教えていただきたい。

事務局)

環境審議会事態に分科会はございません。各分野の計画に基づいて事業を実施しており、その計画において推進委員会などで進捗管理を実施しております。そうした状況を踏まえ、各主管課に環境基本計画に基づいてどういう風に事業をしたか、今年度どのように事業を実施しているかを確認しております。そのため、各分野で審議をして、というものはございません。

委員)

多様な緑をつなぐみどり分野についてですが、地域面積の約 33%にあたるみどりを保全・創出するというものがありますが、この目標について例えば 2030 年までとしたら挑戦的だと思いますが、何年を目指すなどが書いていないので、そういった目標の時期が記載されているとよいと思います。また先ほど別の方からもありましたが、取組と課題の項目を分けることで、とその次の課題が見えてくると思います。気候市民会議を例とすると、丁寧に説明しようとする文字だらけになるのがわかりませんが、丁寧な説明の中で日野市の構成を考慮し 40 名にしたという部分を記述しないとただ絞られた 40 名にみんなが思ってしまうとよくないので、その説明をしていただきたい。また、それぞれの部署で取組まれている、様々な取組みがあると思いますが、1 ページで書くのは難しいと思うのでこのような構成になっていると思いますが、69 ページの透水性舗装のように簡単な説明と詳細はこちらといったリンクをいれるようにすると内容が広がるのではないのでしょうか。

事務局)

みどり率についてですが、土地利用現況調査という調査をベースにしております。5 年に 1 回の調査であり、そのデータが来ていないため、更新できておりません。最新のデータが来ましたら更新させていただきます。

委員)

PFAS や PFOS の説明についてですが、東京都などが確認されていることから日野市が、ではなく東京などが行動するという事がわかったのですが、ニュースなどでも情報が出ていることをうけて、東京都の発表ではこうですみたいな記載があればと思います。

委員)

東京都の職員ですが、PFAS などについてはマスコミ等を通じて発表しておりますので、日野市さんへ情報を提供させていただきます。

委員)

データ集についてですが、全体の流れを見ると唐突に出てきてどういうデータが取り上げられているのかが分かりにくい。説明にありましたが、日野市の事業として行っているものをデータとして取り上げているといった説明があると、データ集としての位置付けが分かると思います。また、生きもの分野についてデータが無いなどもう少し丁寧に資料としてまとめたほうがいいのではないのでしょうか。また、図表について、上下をどちらかに統一したほうが読む方としては楽に読めるのではと思います。

事務局)

データ集について改めて見やすさなどの視点で整えさせていただきます。

(意見集約)

委員長)

審議会として、5点意見を提出したいと思います。

1. 定量的に判別できる目標の現状を分かるように示すよう修正をしていただきたい。
 2. 令和4年度 of 取組み、発生した課題、それを踏まえた令和5年度 of 取組み内容、という流れで事業報告をすることにしていただきたい。
 3. 初めて読む市民にも分かるように取組状況にて掲載している図表や写真について、取り扱う背景や注釈などの説明を追加することにしていただきたい
 4. 写真などの視覚効果媒体について、視覚効果の部分と説明する文章とのバランスを考え直していただきたい
 5. 図表を市民の見やすさという視点で改めて整えなおしていただきたい
- 以上の5点を審議会としての意見として提出したいと思います。いかがでしょうか。異議がないようですので、終了いたします。